

飯田市 歴史 ニュース



News-Letter NO.18
発行日 2005年10月4日
発行 飯田市歴史研究所
〒395-0002
長野県飯田市上郷飯沼3145
電話 0265-53-4670
ファクシミリ 0265-21-1173
E-mail iuhr@city.iida.nagano.jp

第3回飯田市地域史研究集会を開催しました

8月27、28日に追手町小学校講堂で開催した地域史研究集会には、2日間で延べ200人以上の方々にご参加いただきました。今回は東京や大阪など遠くからも大勢来ていただき、大盛況となりました。ありがとうございました。

シンポジウム

「古島敏雄の人と学問」



記念講演では岩本純明さん(東京大学教授)が、古島敏雄氏の人柄や研究史上の意義、研究者としての姿勢などを紹介。続いて吉田ゆり子さん(東京外国語大学教授)が研究報告を行い、古島氏の「御館・被官」研究の重要性や現在まで積み残された課題についてお話ししました。その後郷土史家の原彰一さん、塚田孝さん(大阪市立大学教授)、吉田伸之歴史研究所研究部長によるコメントがありました。飯田・下伊那において古島史学の意義を再認識するための重要なシンポジウムとなりました。

なお、記念講演を予定していた山口啓二さんは体調不良のため参加が難しく、プログラムを変更して行いました。



研究報告会

飯田・下伊那の歴史に関わる8本の研究報告が行われました。中世の禅僧や近世の農書、近現代の都市問題や労働問題、政治思想、現代における図書館の役割など、多彩なテーマの報告がありました。下久堅小学校のみなさんは、久堅和紙の製造に関する実践と学習の成果を発表しました。初日と同じく多くの方のご参加をいただき、どの報告も会場からたくさんの質問が出て、意見交換が活発に行われました。次回以降もより充実した内容となるように工夫していきたいと思えます。



会場内の催し



シンポジウムテーマ「古島敏雄の人と学問」にあわせ、写真や年表、古島氏が少年時代を過ごした丘の上の解説、古島氏に関する書籍などを展示しました。また下久堅小学校による楮(こうぞ)と紙すきに関する展示、中央図書館による貴重書の展示など、大変充実したものとなりました。

桜井絵美さんのピアノ演奏や飯田交響楽団の弦楽四重奏、池上純子さんのアートパフォーマンスも、とても好評でした。販売コーナーでは地域史に関連する書籍を販売し、参加者の多くの方々にお立ち寄りいただきました。



■第4回講座 鈴木 博之さん(建築史) 11月19・20日 東京大学教授

「都市・建築にとって近代とは何であったか」

近代とは何であったかを、土地のあり方、そしてそこに繰り広げられた開発のあり方を通して考えます。

- 1 近代とは 2 土地所有のあり方
3 機能と寿命 4 建築の保存

このテーマに沿って近代を考えていきたいと思っています。近代は土地を一元化し、それを所有する人々の意思に従った開発にゆだねました。しかしそこには、所有のあり方に基づいた開発の形式、開発の形式に付随する寿命、そして将来に対する洞察がさまざまな形で現れてきます。現在問題視されている持続可能な社会とは何かを考えながら、近代を振り返ってみたいと考えています。

■時間

- 1日目(土曜日) 13:30～17:00 (開始時間が変わりました)
2日目(日曜日) 10:00～14:30

■会場 飯田市歴史研究所(飯田市上郷庁舎)3F会議室

■募集人員 各講座30人

■受講料 資料代として500円(2日間分)

■第5回講座 岩本 純明さん(農業史) 1月28・29日 東京大学教授

シリーズ：古島敏雄の人と学問②
「戦後農地改革と古島史学」

■第6回講座 三上 喜孝さん(古代史) 2月18・19日 山形大学助教授

■第7回講座 加藤 陽子さん(近現代史) 3月18・19日 東京大学助教授

■お申込方法 電話、ファクシミリまたはEメールで、お申し込みください。

※ファクシミリ、Eメールでのお申し込みは 住所・氏名・電話番号を明記してください。

※事情により会場などが変更となる場合があります。

10月の月例研究会

「地域のお組合の変化を考えるー明治期以降を中心にー」

飯田・下伊那の地域社会の特徴の一つとなっている「お組合」。その明治からの変化を皆さんと一緒に考えたいと思います。

日時 10月22日(土) 午後2時～4時

会場 歴史研究所 研修室

報告者 鬼塚 博(研究員)

※事前の申込みは不要です。

歴研ゼミだより

参加者の皆さんと一緒に歴史の研究を行い、研究方法を学んでいただくための講座を開いています。「教える」ではなく「ともに学ぶ」ことを目指します。

8月・9月の内容

近世史ゼミ

- 8月2日 諸国巡礼途中に飯沼南にて病死した比丘尼の役所への報告
8月23日 御館と被官百姓の争い
9月6日 山資源の管理と活用
9月20日 煙草・油種など問屋新設の触れ

- テーマ 近世下伊那の民衆生活史
■対象 一般(どなたでも)
■開催日 隔週火曜日
■時間 午後7時～8時40分
■担当 多和田雅保(研究員)

近現代史ゼミ

- 8月11日 「南信新聞」からみた飯田町の社会史
8月19日 中村政則さん(一橋大学名誉教授)に聞く:近著「戦後史」について
9月8日 地域フィールドワーク計画・聞き書き集編集会議
9月24日 製糸都市岡谷の近代化遺産見学

- テーマ 地域社会史入門～飯田町の記憶を探る
■対象 一般(どなたでも)
■開催日 隔週木曜日
■時間 午後7時～8時40分
■担当 田中雅孝(調査研究員)

現代史ゼミ (英語文献講義)

- 8月3日 Limits to Economic Globalization 経済のグローバル化の限界
8月17日 Culture in Human Affairs 人間における文化
8月31日 The Significance of Cultures Today 今日における文化の意義
9月14日 The Multiculturalism of Globalization グローバリゼーションの多文化主義
9月28日 A Clash of Civilizations? 文明の衝突?

- テーマ 地域社会とグローバリゼーション
■対象 高校生以上
■開催日 隔週水曜日
■時間 午後7時～8時30分
■担当 鬼塚 博(研究員)

★各ゼミとも歴史研究所研修室で行っています。お気軽にご参加ください。

親食日記誕生！ 究対象としてきましたが、新地域ではさらに住民のみなさんと協力して地域史研究を進めていきたいと考えています。

受賞作品

受賞理由

著書部門	関島桃子さん 『篋之内の昔がたり』（私家版,2005）	近代化の激流や戦争に翻弄されながら、深い愛情と伶俐な観察眼を以って誠実に生きた、類い稀な自分史叙述の達成として、高く評価されました。
	信州智里東国民学校昭和21年度卒同級会 『一年生のとき戦争が始まったーわれら国民学校奮戦記ー』（農文協, 2005）	国民学校の生徒だった頃の思い出を綴った自分史の記録集です。子どもたちの目がとらえた戦時下の初等教育の実態と被教育体験を伝える貴重な記録として、高く評価されました。
論文部門	田中雅孝さん 「両大戦間期における長野県製糸女工労働市場」 （『伊那』2004年5・7・9月号）	戦間期長野県下各郡の製糸工場における女工の労働状態を詳細に分析したこの論文は、長野県内の女子労働市場の郡別の比較を行った先駆的研究である点が、高く評価されました。

世界史キャラバン in飯田

「第一次世界大戦前後の世界」

世界史研究所が毎年行っている「世界史キャラバン」が今年も飯田にやってきます。この機会に私たちの住む地域と世界の情勢とが、どのように連動していたかを考えてみましょう。事前の申込みは不要ですので、お気軽にご参加下さい。

- テーマ 「第一次世界大戦前後の世界」
- 報告者
南塚信吾（法政大学教授）
田中一生（創価大学講師）
木村英明（早稲田大学講師）
鬼塚 博（飯田市歴史研究所研究員）他1名
それぞれ20～30分の報告を行います。
- 日時 2005年12月3日（土）午後2時～6時
- 会場 りんご庁舎3F会議室
- 参加費 無料
- 主催 世界史研究所
- 共催 飯田市歴史研究所
- 問合せ 飯田市歴史研究所

「世界史キャラバンについて」

世界史研究所研究員 木村 英明

2004年7月に東京の渋谷に産声をあげた世界史研究所は、急激なグローバル化が進行する現代、各国史の寄せ集めとしての「世界の歴史」ではなく、人類の歩みを総合的な視野と方法から捉える「世界史」のあり方を模索する場を目指しています。

「世界史キャラバン」は、研究所の交流・教育活動の一環です。「世界史」を共通の視点に据えつつ、一定のテーマで、数名の専門家による講演会を日本各地に出向いて行うことがその趣旨です。これまで、東京、新潟県南魚沼市、長野県松本市で開催しましたが、その際に壇上から一方的に語りかけるだけではなく、地元の郷土史家や歴史に関心を抱く一般の皆さんと議論し、交流してまいりました。

飯田市では「第一次世界大戦前後の世界」を統一テーマに、同市近郊を含めて、世界諸地域の政治や経済、文化がどのように連動していたのかを、地元の皆さんとともに考えてみたいと思います。

基礎共同研究 歴史的建造物調査

7月28日（木）～30日（土）3日間の日程で、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻歴史系伊藤研究室を中心としたチームによる、市内歴史的建造物の実測調査を行いました。

初日の28日には川路八区諏訪神社の旧拝殿を調査。これは拝殿の新築工事に伴い、取り壊された前拝殿の中に納められていた遺構です。床上から天井部分までしか残されていませんが、この神社の建造物の中では最も建造年代が古く（江戸中期と推定）、また建造時の経緯や用途など、非常に興味深い建造物です。

29日には、市内に残る唯一の武家住宅「福島家」の調査を実施。ほぼ丸1日かけての調査となりました。

そして30日には、通称「脇坂門」と呼ばれ、追手町に残る飯田城下を偲ばせる遺構の調査を行いました。この門の由来についても明確ではなく、今後の調査が期待されるところです。

いずれの調査も歴史的建造物コーディネーターの



川路八区諏訪神社の調査風景

皆さんが調査に参加され、図面作成に協力していただきました。

現在調査結果をまとめています。整いましたら年報などを通じ、皆さんに公開していきます。

歴史研究所年報には、研究所の活動報告等に加えて、市民や研究者のみなさんからの投稿原稿も掲載しています。2006年8月発行を予定している年報4号でも、飯田・下伊那を素材とする歴史学関係の研究について、投稿を募集しています。募集原稿は論文や研究ノート、史料紹介、調査報告、文献紹介など。グループでの研究も歓迎します。採用された方へは掲載号を3部献本します。

投稿規定

応募ジャンル、氏名、住所、電話番号を明記し研究所へご提出ください。審査の上、2006年3月末までに採否をお知らせします。

■締め切り 2006年1月末日

■ジャンル (標準枚数※)

論文 (40~60枚)、研究ノート (20~50枚)、史料紹介 (10~30枚)、調査報告 (20~40枚)、文献紹介 (10~20枚)、その他。

※1枚400字換算。図表を含む。

■体裁

○手書き原稿の場合 400字詰め原稿用紙を使用。鉛筆書き不可

○ワープロ原稿の場合 A4用紙(横)に縦書きで、40字×20行

※いずれの場合も2部提出のこと。

■問合せ・申込み 歴史研究所

★注意 他誌との二重投稿はご遠慮ください。また提出原稿は採否に関わらず、返却しません。

歴研日誌 8月・9月

8月

- 2日 近世史ゼミ
- 3日 現代史ゼミ
- 8日 上村、南信濃村教育委員会訪問・協議
- 11日 座光寺史料調査会
近現代史ゼミ
- 15~21日 テレビ広報「古島敏雄の人と学問」
を飯田ケーブルテレビで放映
- 17日 現代史ゼミ
- 18日 駄科北沢家史料所在調査
- 19日 吉川昭文さん聞き取り調査
近現代史ゼミ
- 20日 年報3号発行
竹下昌義さん聞き取り調査
- 23日 近世史ゼミ
- 25日 座光寺史料調査会
- 27日 研究員会議
- 27日・28日 第3回飯田市地域史研究集会開催
- 30日 大門町史料所在調査
県市町村女性教育委員協議会で講演
(多和田真理子調査研究員)
- 31日 知久町4丁目史料所在調査
現代史ゼミ

9月

- 2日 中野市教育委員会、研究所を視察
- 3日 江戸町史料所在調査
- 6日 近世史ゼミ
- 7日 箕瀬町1丁目史料所在調査
市議会開会、学術研究振興基金条例案を提出
- 8日 座光寺麻績史料館史料について関係者協議
近現代史ゼミ
- 13日~16日 清内路村史料調査(東京大学吉田伸
之ゼミ主催)に参加
- 14日 現代史ゼミ
- 14日・15日 三穂支所文書調査、今村久さん聞き取り調査
- 14~16日 歴史的建造物調査
- 20日 近世史ゼミ
- 22日 座光寺史料調査会
- 24日 近現代史ゼミフィールドワーク「製糸都市岡谷の近代化遺跡を巡る」
- 28日 市民大学講座「飯田が生んだ歴史学者古島敏雄の人と学問」(多和田雅保研究員)
現代史ゼミ
- 29日 市議会で学術研究振興基金条例可決成立



近現代史ゼミフィールドワーク

10月・11月のスケジュール

2005年 10月						
日	月	火	水	木	金	土
2	3	近4	5	6	7	8
9	10	11	英12	現13	14	15
16	17	近18	19	20	21	月22
23	24	25	英26	現27	28	29
30	31					

2005年 11月						
日	月	火	水	木	金	土
		近1	2	3	4	5
6	7	8	9	現10	11	12
13	14	近15	16	17	18	あ19
あ20	21	22	23	現24	25	26
27	28	29	英30			

開所日 休所日 あ…アカデミア 近…近世史ゼミ
 開所時間 午前9時~午後5時 月…月例研究会 現…近現代史ゼミ
 休所日 日曜日、月曜日、祝日、年末年始(12月29日~1月3日) 英…英語でよむ現代史ゼミ

